

言葉の森* ③

北星学園大学 経済学部

増田辰良

2022年10月26日 NO. 23

〒004-8631

札幌市厚別区大谷地

西2丁目3番1号

北星学園大学 経済学部

メール・アドレス: masuda@hokusei.ac.jp

*このワーキングペーパーは、著者個人の責任において書かれたものであり、北星学園大学は、発行管理のみを行っています。

目次

はじめに

言葉の森 ③

はじめに

詩とショート・ショートとの共通点について考えてみたい。

大胆な言い方が許されるならば、詩は作者の心の内（叫び）を言葉にしたものである（こう書くのと、すでに詩を一面的にしか理解していないことを暴露しているが）。

「時代は言葉がないがしろにしている――
あなたは言葉を信じますか。」

これは長田弘（2018）の末尾に発せられた言葉である。わずか2行の言葉たちから、その切迫感をひしひしと感じる。詩人は、この世の中は言葉で構成されていること、「なぜ」「どうして」という疑問で満ち満ちていること、そしてその言葉が軽るんぜられ、神通力を失いつつあることを、絵本を通して伝えようとしている。

「ようとしている。」と書くのは、私が行間に込められたそんな想いを読み取ったつもりになっているからである。詩を、言葉を読む姿勢はこれで正しい。言葉の味わい方は個々人、違っているもよい。

それじゃ、ショート・ショートはどうか。詩との顕著な違いは、言葉が直接的であることか。確かに、行間を読み込んでようやく「ああ、なるほど」と納得のいく書き方もある。多くは切迫感もない。ただし、これはショート・ショートの文体をどう捉えるか、に依るのかもしれないが。

同じ言葉を使う文学の部類に属していても言葉そのものを味わう、また行間に想いを込めるものと、必ずしもそれに拘らないものがある。ただし、言葉の書き手である限り、この両者にも共通点はある。

「他人の言葉はダシにはつかえない。

いつでも自分の言葉をつかわなければならぬ。」（長田、2017、14頁）

「自分の言葉であること。

手羽肉、もも腿肉、胸肉の

骨付きコトバであること。

・・・

カラッと揚げるのが

コトバは肝心なんだ。」（長田、2017、84～85頁）

詩とショート・ショートは自分の言葉で、かつ言葉の切れ味を磨くことにおいて共通していると私は考えている。

参考文献。

長田弘（2017）「言葉のダシのと리카た」「ユトバの揚げかた」『食卓一期一会』ハルキ文庫、14頁、84〜85頁所収。
長田弘（2018）『最初の質問』講談社。

言葉の森 ③

ある大学の教員

― 一番、話題すること。

「学内行政」

― 一番、話題にしないこと。

「研究活動」

― 一番、欲しいもの。

「役職手当て」

真実です！

講師 先生、35年間、ご苦勞様でした。

教授 ありがとうございます。今日は退職パーティを開催していただいて、恐縮しております。

講師 大学での研究活動を振り返られて、どうでしたか？

教授 わずかでもいいから社会に貢献したいと考えて、研究をし、論文や本を公刊してきました。

そのうちの幾つかで実際に貢献できたことが嬉しいですね。

講師 大学の教員や研究について、なにかご感想をお持ちですか？

教授 大学の教員や研究ですか？

講師 はい。後輩である我われへの啓発のためにも、ぜひ、お聞かせください。もう先生からお

聞きする機会もないかと思えますので。

……。

講師 ぜひ、お願いしますよ。

教授 研究者を目指して勉強を始めたころ、大学の教員になる方はみなさん勉強や研究をするこ

とが好きな方々ばかりだろう、そんな人間が研究者になるんだろうな、と思っていました。

ほ。

教授 でも大学の教員になってみると、大学の教員がこんなにも勉強しない、論文いや活字が書

けない、出せない、のかつて不思議に思うようになりました。

は。

講師 あなたも研究論文を公刊されているでしょ。

講師 はい。

教授 その研究論文をちゃんと評価してもらえる研究者のいる組織へ移動されるといいですよ。

は。

教授 でも、この組織では研究なんてできなくても大丈夫です。

講師 大丈夫ですかあ？
教授 心配ご無用。
講師 どうして、ですか？
教授 ごらんさない。そんな方々たちがトップにいますから。
講師 それって無駄な時間と役職手当を浪費しているということですね。
教授 無駄や浪費が許されている間はまだまだ大丈夫ですよ。ふっふっふっ。

大学教員採用人事

理事長 で、候補者の能力は？
学長 事務処理能力なら、あるようです。
理事長 研究は？
学長 ……?? ……ぜひ、採用しなさい。

合格通知

母親が受験勉強をしている祐太郎の部屋へおやつを持って入ってきた。

「どう。勉強、進んでる？」
祐太郎は机に顔を下げたまま面倒くさそうに答えた。
「うん。口述試験では国語の学力と一般教養が問われるから、必死に復習をしているんだ」
「試験は明日でしょ。大丈夫？」
「ちエ。もう、うるさいなあー。あっちへ行行ってよー」
「はい、はい、分かりましたよ。じゃ、期待してるからね」
「うるさいーって言うてるだろ！ ちエ」そう言って祐太郎は母親を追い出した。

試験室へ入るとカジュアルな服装をした主査らしい小父さんがテーブルの向こうからメガネ越しに祐太郎の表情を覗き込んで、咳払いをした。居並ぶ試験官たちの底意地の悪そうな視線が祐太郎めがけて突き刺さるのを感じた。

負けてたまるか。ここを必ず突破してやる。祐太郎は腰掛たまま胸を反らした。
小父さんはおもむろに口を開いた。
「それでは、これから試験をはじめます。ホワイト・ボードの前へ進んでください」
「はい！」祐太郎は元氣よく返事し、ボードの前に立った。
「では、はじめます。トクシマケンのトクシマを書いてください」
「はい」祐太郎はボードへ「阿波踊り」と書いた。
「次です。カガワケンのカガワを書いてください」
「讃岐うどん」

一瞬、試験官たちの目が鋭く光った。
「次はアキタケンのアキタです」
迷うことなく、「美人」と書いた。
小父さんは右隣にいるアロハシャツの男に耳打ちしてから、言った。
「次はことわざです。口頭で答えてください。顔で笑って心で〇〇」

「呪のろう」

矢継ぎ早に質問が飛んできた。

「一寸の虫にも〇〇」

「五寸釘を打つ」

「〇〇に片足を突っ込む」

「湯船」

小父さんの顔からはやれやれという心の嘆きが見てとれた。どうやらまた質問を変えるようだ。

「次に進みます。小説『坊ちゃん』を書いたのは誰」

祐太郎にとって想定外の質問であった。焦る気持ちを落ちつかせ、答えた。

「はい。作家です」

試験官たちの目元が緩んだ。小父さんはまたアロハに耳打ちしてから、勿体ぶった口調で間をおいた。

「長嶋茂雄が引退セレモニーで言った有名な言葉、『我が巨人軍は永久に〇〇です』」

「ホアエバー」

小父さんはどうしようもないという陰気な声で、「では、最後に」と言っ、訊いてきた。

「1492年にアメリカ大陸を発見した人物は」

「船乗りです」

帰宅した祐太郎は母親から試験の様子を尋ねられた。ありのままに答えると母親は「うん」

と唸^{うな}って、膝から崩れ落ちた。なので、合格通知が届いたときには、母親は世界中の超常現象を

見せつけられたように、「うううう〜ッ」と呻^{うめ}いてへたり込んだ。

喜んでいるのは祐太郎だけだった。なぜなら、ピン芸人の登竜門である芸人養成所への入所が認められたからである。

白物家電

これって、誤字でしょ。白物↓代物。

代物は商品とか品物のことだよな。

ああ、そうかあ。白色の家電品ってこと？

ほぼ正しいよ。高度経済成長期に造られた家電品の色は白が主流だったんだ。それにちなんで白物と呼ぶようになったってこと。

(付記。今は生活家電品一般のことをいう。)

漢字のクイズ

この漢字って、なに？

椀、碗、鉢。

(答え。すべておわんです。椀⇨木製、碗⇨陶磁器製、鉢⇨金属製)

じゃあ、これは？ 腕。

私だけ？

— 妻という漢字。

ときどき毒と書いてしまいます。

デジタル・デイバイド

新しい飲み屋?→タスクバー、ツールバー。
上り坂? 下り坂?→アップロード、ダウンロード。
SOSの書き間違い?→SNS。
5人の爺さんかい?→5G
山びこ?→Yahoo。
短髪?→ショートカット。
薬局?→ドラッグ。
ネズミ? 口か?→マウス。
本と分かんらん→ホント。
咳?→オプシヨン。
新曲?→ウイルス(ゴースト)バスター。
新しい測量単位?→プログラム。

開いた口からは……

「部長。お願いがあるのですが?」

部下の早川加奈はやかわかなから、こう声をかけられた私は昼食をともにしながら話を聞いた。

「お願いって何?」

「はい。結婚式に出席して欲しいのです」

「ええっ? あなたの結婚式?」

「はい。部長にはぜひ出席して欲しいのです」

「おお、おめでどう」

「ありがとうございます」加奈は私の目を見て丁寧に頭を下げた。

私はスパゲッティをフォークに巻きながら訊いた。

「で、式はいつ?」

「来月の5日の土曜日、10時からです」

「そう。(笑) それでお相手は営業部の長尾君かい?」

「いいえ。長尾さんとは半年くらい前に別れました。元彼です」

「へっつ。あなたと長尾君が恋仲であることは社内みんなが知っていたよ」

「はっはい。でも、長尾さん、ずっと前から他に彼女がいたみたいで」

私は一瞬、口に運ぶフォークを止めた。

数秒間、沈黙の空気が淀んだ。

「そっかあ」

「結婚相手は部長の知らない方です。私も彼氏がいましたから」

リズムカルにスパゲッティを噛み砕く口の動きが乱れた。

「そう。でも、良かったね。おめでどう」

「ありがとうございます」加奈はまた丁寧に頭を下げた。

「でも、式が来月とは早いねえ」

「はい。長尾さんが早くしろって」

「長尾君が?」

「はい。長尾さんが1年前から予約していた式場をキャンセルするとキャンセル料が高いので、式場と交渉をしてくれて」

「長尾君が……、交渉を？」

「はい。新郎新婦の名前を替えるだけなので、式場もOKだということで段取りを進めてくれます。私の相手はそんなに急ぐことはない、って言ってくれましたけど」

「へっつ。長尾君が段取りをねえ」

「はい」

私は呆れたという目付きで手帳を捲りスケジュールを確認した。

「来月の5日、土曜日、10時なら何も予定が入ってないから、出席させてもらおうよ。可愛い部下の人生の門出だもの」そう言つて、私は口の端にゆがんだ笑みを浮かべた。

「ありがとうございます。本来なら、招待状を出さなきゃならないのですが、出さなくてもいいですよ」加奈は懇願するような声音でそう訊いてきた。

「ああ、いいよ。スケジュールに入れておくから」私は手帳の日付欄に力を込めて〇印を付けた。

「テーブルは、友人関係の方々たちと一緒に座っていただけますか、それで……」

「何か？」

「部長の横の席が、長尾さんの席になりますから」

スパゲッティをフォークに巻く私の手は止まり、開いた口からは……。

公正な裁判

お金持ちと貧乏人がいた。

貧乏人の家には、その家風に相応しくないほど毛並みの美しい猫がいた。トンビ（雑猫）がタカ（美猫）を産んだのである。売れば、大金を手にすることができたであろうが、貧乏人はその猫を家宝にして、手放そうとはしなかった。この幸運は隣人たちから妬みを買った。

ある日、貧乏人が猫を抱き、日向ぼっこをしていると、前々からその猫に目を付けていたお金持ちがやって来て、「一度でいいから猫を抱かせてくれ」と頼んだ。貧乏人はしぶしぶ猫を手渡した。

すると、お金持ちは狡猾な目で猫を睨んでから、

「この猫は自分が飼っていたものが逃げたもので、ずっと探していたんだ。今すぐ、返してくれ。このまま連れて帰る。自分の猫だ！」

と怒鳴りちらした。

貧乏人は「自分の飼猫が産んだものだ」と断固として主張したが、聞き入れられず2人は取っ組み合いの喧嘩をはじめた。この騒ぎを聞きつけて集まってきた野次馬たちは貧乏人へのやつかみからお金持ちを応援した。

喧嘩では埒が明かず、何としても手に入れたいお金持ちは貧乏人を猫横領の罪で訴えた。

裁判官は2人を法廷へ呼び事情を訊いてみた。がどちらも主張を譲らない。そこで裁判官は提案した。

「猫を1日だけ裁判所が預かる。明日、判決を言い渡すのでここへ来るように」

次の日、裁判官は猫を抱いて法廷へ現われ、両名に声をかけた。

「これはあなたがたの猫ですか？」

するとお金持ちはニッと笑つて、

「はい。確かに私の猫です」と答えた。

次に、貧乏人が、

「はい。それは私の可愛い猫です」と答えると、猫は、

「ニャーニャー」

と鳴いた。

それを聞いて裁判官はすぐに判決を下した。

「この猫は貧乏人のものだ！」

丸1日、餌をもらえず、腹を空かせた猫は貧乏人が話すのを聞くと餌をおねだりする鳴き声を発したのであった。裁判官が床に下ろすと、猫は貧乏人の胸へ勢いよく飛びこんだ。

国民性

― 宝くじで2億円が当たったとき。

フランス人「会社を辞めて一生、バカンスを楽しむ」

ドイツ人「株や金に投資する」

日本人「老後の生活資金として貯金する」

北朝鮮人「将軍様に没収されます！」

そだね〜

― 安月給の夫が土曜日に妻を外食に誘った。

「たまには外でランチをしよう」

駅前のホテルの最上階にあるレストランでパスタのセット料理を食べた。

美味しいランチ、みごとな眺望、至福の時間が流れた。

自宅へ帰る途中、スーパーの駐車場を横切るとき、妻がショルダーバッグを開けている。夫が声をかけた。

「おい。何を探してるんだあ」

「夜のおかずを買うメモ用紙を……」と妻は返してきた。

「おい。現実に戻るのには自宅に着いてからにしよう」

「そだね〜」

菅総理の国会答弁

― ご飯論法

孫 ご飯について話し合うことなの？

祖父 いいや。かみ合わない答弁(質疑)のことじゃよ。

孫 入れ歯のことかあ？

祖父 質問の趣旨をずらして答えること。

孫 それって正しい答えなの？

選択とは捨てること

― 老妻は生命保険への加入を検討している。

A案。保障期間10年間分の基本保険料(200万円)プラス医療特約(20万円)の合計を前納で

一括して支払う。この期間中に死亡したり、保障期間満了時には基本保険料が支払われる。
B案。10年間の掛け捨て保険で1年2万円の払込金は生涯変わらない。死亡すれば20万円の保険
が支払われる。

2つの案をめぐって老妻は悩んでいた。

老夫がアドバイスした。

「保険は損得を考えて選びなさいよ」

老妻は思案気に答えた。

「損得ねえ」

「そう損得だよ」

「……」

「いずれにしろ、お前が死ぬとこれらの保険は俺が受け取ることになる」

老妻は一オクターブ声を上げた。

「じゃあ、どちらにも加入しない！」

オムツ

「大人用オムツ」の売上が「子供用オムツ」を上回ったそうさ。
それとともに老人の威厳は下がっている。

お・も・て・な・し

日本近海の小島に漂着した北朝鮮籍の漁民たち。小島にある事務所の備品を持ち逃げしたところ
を逮捕された。実刑判決を受け、懲役に服した後、本国へ送還されることになった。ところが、
帰国することを嫌がっている。

「どうして？」警察官が訊いた。

「暖かい監獄での美味しい食事、布団や毛布。ここは地上の楽園そのものです」

優しい人

隣人 除草剤を撒いたが、効き目が無い。

私 助かった。虫たちよ、生き延びろ！

鑑定

― 殺人事件現場。

被害者の性別は捜査官の呼び方で分かる。

死体したいと呼べば、男性。

遺体いたと呼べば、女性。

快便

「便秘なんだよな」

「ウンチも腸内にステイホームか？」

「すつきり出す方法はないかなあ」

「便座にロダンの『考える人』のように前傾姿勢で座って、悩めばいいだろ」

エレベータ

― ホテルでのお見合い。

男性は予定時刻よりも遅れて着いた。最上階にいる仲介者へ電話した。

「すみません。今、F1のエレベータ前にいます」

「はい。じゃ、これからお相手の女性に降りてもらいます」

しばらくして、「チーン」と扉が開いた。

若くて綺麗な女性、ほどほどの女性、スルーしたい女性、中年の女性……、が続々と出てきた。さて、お相手は？

残業

結婚式当日。式場では新婦がウエディングドレスの着付けを終えた。

しかし、新郎がまだ来ない。

気をもんでいる新婦のスマホに新郎からメールが着信した。

「仕事が片付かない。すまんが、先に始めておいてくれ」

迷路

田舎で生まれ育った電気工の男性が上京した。

地下鉄、JR、私鉄が一つになった路線図を見上げて呟いた。

「複雑な配電盤のようだ」

デートの誘い

― 異なる学部に通う3人の男子大学生。女性をデートに誘うときの乗り物について話している。

工学部生「エコの時代だから、ソーラーカーでドライブをしたい」

経済学部生「エコの時代だから、自転車でサイクリングがしたい」

2人は黙っている残りの1人に訊いた。

「君はどう？」

すると、農学部生はこう答えた。

「エコの時代だから、トラクターで農場巡りをしたい」

証明

― 大学の就職支援課職員。学生の就職先を開拓中です。

ある会社の人事担当者に、「わが大学の卒業予定者をぜひ雇ってやってください」と頭を深く下げ

すかさず人事担当者は訊いた。

「おたくの学生、成績は優秀ですか？」

職員は明るく笑顔で答えた。

「はい。全員、無試験の推薦入学者たちです」

区切り

ニホンノ・ウサギ、と言えば、日本のあらゆる地域に生息しているウサギ一般のこと。

ニホン・ノウサギ、と言えば、日本のある山野に生息している特定のウサギのこと。

折願

― 医学部を目指す息子は今年で3浪目。
毎年、正月には神社へ1人で初詣に出かけていた。今年こそはと父親も一緒に願掛けに同行した。
お参りの後、毎年、恒例として絵馬に願いを書いてきた、と言う。今回、父親はその絵馬を見て
3浪する理由が分かった。

「合格折願」

2月3日

― オニのお面を手にした父親が一人息子の健けんに言った。

「毎年、お父さんがオニの役をしてるから、今年は、健がオニをやれよ」

健は大きな声で反論した。

「豆まきは子供が楽しみにしている行事だよ。お父さんがオニをやつてよー」

お父さんは子供には勝てない、しょうがない、という顔をして妻に声をかけた。

「今年はお前がオニになれよ」

妻は夕食の準備をする手を止めて、凄すこんだ声音で答えた。

「オニ？ わたしがオニになつてもいいのかな？」

その顔を見た夫は頬をピクピク動かし、言い返した。

「お前、お面、いらないわ」

子供電話相談室

相談員 はい。どんな相談ですか？

子供 お母さんがお父さんにデブデブ（DVDV）って言って、嫌がつてるの。このままだと、
離婚するって。

相談員 お父さんがお母さんを殴ったりしてるのかい？

子供 ううん、殴ってないけど、デブデブって。

相談員 それはねえ、言葉による暴力だよ。そんなとき、君はどうしているの？

子供 僕ねえ、お父さんにジョギングをすれば、って言ってあげてるよ。

仕事

よく来てくれたね。まあ、入つてよ。頼みたいことがあるんだ。

どうしたの？ 何をしてるの？ 空き巣に入られたの？ 書類や本が散乱してるじゃない。この
書類は何？

確定申告の期限が迫っていて、頭はパニックさ。古い領収書や給与明細書を探しているところな
んだ。

僕にいい考えがある。そんなことより酒を飲みに行こう。ずっと簡単な仕事だよ。

着火

ねえ、お願い。このガスレンジを直してよ。
もう、無理だよ。着火部分がすり減っちゃって、このレンジは使いものにならないって。耐用年数を過ぎてるってえ。

でも、昨日まではちゃんと着火してたし、25年も使ってきたのよ。本当にだめなの？

そんなに長く使われてきたので、ちやつかり昨日で天寿をまつとうしたのさ。

忠告

— 英会話。

スージー ショウタ。これはあなたに適任だわ。

翔太 どうしたの？ 普段は僕に会っても嬉しそうじゃないのに。何か悪さを考えてる？

スージー 悪さじゃないわ。助けて欲しいの。この日本語を英語に翻訳して欲しいのよ。

翔太 いいよ。でも昼食、おごってくれる？ 久しぶりに肉汁たっぷりのステーキを食べたいんだ。

スージー うん。いいわよ。

翔太 どれどれ。「英語の日本語訳」妻が留守の日、昼食をとるために太郎は蕎麦屋へ入った。なぜなら、太郎は脂っぽいステーキを控えるよう医者から注意されていたからです。」

保身術

おい、どうしてそんなに時間がかかるんだ。デパートは後1時間^{あと}で閉店だぞ。

慌てないで。準備OKよ。さあ、行きましょう。

すごいな。なぜ、そんなに丁寧に丁寧に化粧をして、着飾ってるんだあ。おまけに香水も？ パーティじゃなくて、デパート地下へ大根と白菜を買いに行くだけだぞ。

だってえ。F1の化粧品売り場と洋服店でいつも呼び止められるんだもの。

くち 口ナビ

ガソリン満タンー。4500円ですー。

ありがとう。ああ、そうだ。グリーンレイクへ行く道順を教えてくださいませんか？

ああ、レイクですか。まず、幹線道路に出て、大きな看板の道路マップを探してください。あ
るはずですよ。

ケチ比べ

隣の爺さん、しみつたれだよな。

どうしたの？

^{じぶんち}

自分家の小屋を取り壊したから、その廃材をくねって頼んだのさ。境界にフェンスを作ろう

と思つて。ところが、資源ゴミとして出すって言い張るんだ。

じゃあ、わが家の倉庫にある廃材を使えばいいでしょ。

そうするよ。

じゃま物？

今夜のパーティーには来るの？ それとも先約でもある？
もちろん、行くさ。じゃま物がなくなるまで待つだけさ。1時間くらい遅れて行くから。
何を待つのか？ それじゃあ、ビールや酒は全部、無くなっちゃうぞ！
いいんだー。俺、アルコールは一切、医者から止められてるんで。

言い訳

お父さん。林道でUFOを見たよ。空が急に輝いたと思ったら、円盤が下りてきたんだ。まるで僕の車を狙っているかのように。怖くなって、アクセルを目一杯踏み込んで、猛スピードで帰ってきたんだよ。

それが言い訳か？ 門限は9時だぞ。寝ボケた作り話は聞き飽きた。
うそじゃないよ。

まだ確認もしていないのに、なぜ飛行物体と決め付けるんだあ。

いつするか、今でしょ

年離れた父親は若いときから家の中では口数が少なく、口下手であった。それには根拠がある。家には2人の娘と女房、合計3人の女性に囲まれて生活してきた。そのため主導権は自ずと女性たちが持つように仕向けられてきた。父親は手も口も出さず、金を出すのみ。すべからず蚊帳の外に置かれてきた。

久しぶりに里帰りしてきた娘たちと女房はテーブルでお茶をしていた。女3人寄れば、かしましい。3人の前にはいつものように高級なチョコレートとショートケーキが並んでいた。長女のミキが口を開いた。

ミキ また、お父さん、横になってる。

女房 退職して15年。毎日がお正月よ。いつもソファでうたた寝して……。

ミキ ところで、ねえお母さん。お父さんが亡くなった後のお骨の処理はどうするの？

女房 今から心配するのかい？

ミキ そうよ。なんでも早めに用意しておくべきよ。

女房 そうかねえ。お墓を造ると後が大変だし、どうするかね。

次女が加勢する。

マホ 樹木葬とか海に散骨する人もいるみたいよ。

女房 どっちもお金がかかるのでしょ。

マホ もちろんよ。でも1回の支払いで済むみたい。今からでも遅くないから年金を貯めておいてね。うちの旦那は安月給だから、そこまでは負担できないからさ。

女房 どこかに安いコインロッカー式の納骨堂でもないかしら。

ミホ あれだつて上の段になるほど値段も高くなるそうよ。

マホ へーっ。そうなんだあ。仏様になっても経済格差が続くんだけ。

ミホ 当たり前よ。この世もあの世もお金したい。戒名なんて、ん十万円もすることがあるって聞いたわ。

女房 でも、現役のときはわたしたち家族のために一生懸命働いてくれたんだから。戒名をつけてお墓も造ってあげたいわ。

マホ そうねえ。好きだった甘いものを一切食べるの止めて、健康ファーストで働いてくれた

もの。

女房 あら嫌だあ。ミホったら、ケーキを口の横に付けて子供みたい（笑）。
ミホ ごめん、ごめん。さすがに高級品だけあって、これ美味しいね。
マホ 高かったんだから。自腹よ、自腹。次はミホが持参してよね。

ミホ 分かっているって。それにしても、お父さん、食べるの止めてかわいそう（笑）。もう30年くらいチョコやケーキを食べてないはずよ。よく我慢できてるね。こんなに美味しいのにな。

ミホ その分、死んだ後はしつかり供養してあげて大事にしてあげましょうよ。
女房 そうですよ。じゃないとお父さんは浮かばれないもの。

ソファで横になっていた父親は目をカット見開いて天井に向かって言った。
父親 死んだ後じゃなく、生きている今、大事にしてくれ。

予習

日曜日、ステイビーターのコンサートがあるよね。1年間、待ったんだもの、君も当然、行くでしょ。

そうそう！ でも予定表を見たら、その翌日に英語のリスニングテストがあるのさ。残念だけど、コンサートは無理だよ。
そっかなあ。コンサートはリスニングの練習になるぞ。行くべきだ！

自己評価

社長、お呼びでしょうか？

君の営業成績なんだが、今月はたったの3台しか売ってないね。成長しないな。これで十分だと思ukai？

いいえ。でも社長、先月は2台だけで、その前の月は1台、さらにその前は1台も売れませんでしたから。確実に成長してますよお。

逆襲

隣のお爺さん、イジワルよー。

どうした？

お爺さんが言うには、わが家の桜の木が庭の日当たりを悪くしてるんですって。それに春になると、花びらが落ちて、掃除が大変だ！って文句を言われて。信じられる？

おい。爺さん家の庭は反対側だろ。遠慮せずに言ってやれ。花見代をよこせーって。

縁故

よう！ 久しぶりだな。都会の生活はどうだ？

あれ、聞いてない？ 3月一杯で出世競争は止めて、この小さな町へ帰ってきたんだ。ええっ！。そう、で、今、どうしてるの？

親父おやじの知人が会社を経営しているので、その人に雇ってもらったんだ。

そうだったのかあ。でも、お前は高学歴だし、高給を稼げるはずだっただろ？

都会の生活はもうこりこりだよ。意外と縁故社会なんだ。あの環境は俺には合わないよ。

睡眠不足

おはよう！ 兄さん。昨夜はよく眠れた？
ううん。右足のふくらはぎが痛くて、ほぐしていたら寝付かれなくて睡眠不足だよ。
そうだよ。僕もサッカールの後に同じような体験をしたことがある。そういうときは寝る前に水分を十分にとるべきだよ。
うん。でも、そうしたらトイレに起きる回数が多くなって眠れないんだ。

他力本願

明日の夜、接待を任せられたんだった？
うん。取引会社の重役たちが来るんだ。上司は俺に彼らを大いにもてなして欲しいって言うんだよな。
お前は言葉の使い方も接客態度もいいから、きつと上手くやれるよ。
そんな言葉も態度も必要じゃないって。
じゃあ、どうやって接待するの？
高級バーへ連れて行くんだ。そこでアルコールを口に含ませれば言葉も接客なんていらないよ。

がせねた

編集長。これはビッグスクープですよ。
自分で撮ったのか？
はい。大臣が私の知らない女性とホテルから出てくる写真です。バッチリ撮れています。
どれ。見せてみる。
はい。これです。
んんっ？ これは娘さんに間違いない。わたしの大学の後輩だ。

他人が、なぜ？

いいところへ来てくれたー。あなた、車の整備士よね。
そうだけど。どうかした？
車のドアをロックしたまま出ってしまった、開けてくれない？
なるほど。じゃあ、この車の合鍵を持ってくるよ。待ってて。

辛い

よお！ 新しいライフスタイルはどう？ もう慣れたかい？
医者から勧められた食事を文句も言わずに摂ってるよ。酒、タバコは止めて、運動もやってるぜ。
スリムになったな。でも、あまり嬉しそうじゃないなあ。
嬉しくないよー。粗食は我慢できる。でも、毎日10キロ走るんだぜ。走ることに命を縮めている
ようで……。

ファーストフード並み

美穂から夕食会の招待状をもらったかい？
うん。もらった。
一流シェフを自認する彼女がまた料理を準備するんだってさ。
そうか。じゃ、ハンバーガーを食べてから行こう。

唯一の贅沢

祖母は儉約家です。お化粧品や洋服には一切お金をかけません。特売品を買うためなら、長い距離を歩くことも気にしません。今日も特注のスニーカーを履いて出かけました。

余計なお世話

わたしの風邪は咽喉からくる。いがらっぽい、引いたかな、と思ったときは手遅れだった。森進一の声真似をしてちょうどいい声音になってしまっていた。顆粒かりゅうの市販薬を飲んだが、その数とは反比例して酷ひどくなるばかり。インフルエンザかもしれない、と不安になった。悪寒がして寝ているのも辛い。思い切つて、布団から出て、ふらふらした足取りで近所のクリニックへ行つた。待合室は先客で溢れていた。自分の受付番号を見ると診察までに30人ほどいるようだ。人気にんきのある医者なのか、それとも病人がこんなにもいるのか、という状況判断をする気力すらわからない。長椅子に腰を下ろした。両隣はお年寄りたちである。血液検査を受けに来たのか、血圧を測りに来たのか、聞きたくもない、聞けば、沸いた脳ミソにジンジンと響いてきそうな元気な声でおしやべりをしている。右隣のおばあちゃんが不満を漏らした。

「この前、孫が遊びに来てくれたので、オモチャを買つてやったのよ。でも喜ばないから、何が欲しいって訊くと、お金つて言うの。5歳の孫が〜」すると左隣のおばあちゃんが陽気な声で返した。

「今どき、オモチャじゃあ、喜ばないわよ。気遣きじかいするよりも現金をあげなきゃ。ハッハッハッ」そんな効き目のない下剤みたいなおしやべりを耳にしながら、わたしは問診票を記入し、体温計を脇に挟んだ。

「ピイピイピイ」と鳴く体温計を見ると、39・2度もあった。ふらつくはずである。俯うつむいたまま、意識は熱地獄をさまよい続けていると、どこかから囁ささきかけられた。夢か現実か、区別がつかない。すると背中を優しくさすられた。確かにさすられている感覚があった。

「大丈夫かい？ 本当にシンドそうだねえ」
虚ろに目を開けると、左隣の席は空いていた。診察室へ入つたのだろうか。声の主は右隣のおばあちゃんであった。わたしの顔を覗き込み優しい声をかけてきた。

「あんだ。若いのにずい分、具合が悪そうだねえ。ここにいと風邪がうつるよ。早く帰つて暖かくして寝なさい」

「……」

答えようにも、咽喉が腫れて言葉が出ない。黙っていると、また声をかけてきた。
「気遣いじゃなくて、あんだもお金が欲しいのかい？」

考え過ぎ

8回裏2アウト満塁。カウントは1ストライク3ボール。バッティングチャンス。ピッチャーはチャッチャーのサインに首をなかなか縦に振らない。振つたと思つたら、3塁へ牽制球を続けて

3球も投げた。そのたびにチャッチャーはイライラしながらサインを出す。

ようやく次の球種が決まったようだ。ピッチャーは大きく振りかぶり、投げた。ボールはホームベースの手前で落ち大きく跳ねて、バックネットへと転がっていった。それを見て難なく3塁ランナーは小躍りしながらホームを駆け抜けた。主審は両手を左右に開き「セーフ」をコールした。

「タイム、タイム」チャッチャーは主審にタイムを要求し、マウンドへ歩を進め、ピッチャーを叱った。

「おい、俺のサインどおりに投げろ。お前、考え過ぎだぞ」

「だから、シンカーを投げたんだが……」

早い者勝ち

共働きの夫婦は結婚して2年目、まだ子供はいない。結婚したときから、家事の分担をした。妻は洗濯と食事の用意をし、夫は食器洗いと掃除を引き受けてきた。

夫には、妻に言い出せないことがあった。それは妻が作る料理の味が舌に合わないのである。たとえば、肉じゃがは変にスパイシーだし、味噌汁はやけに水っぽい。

夫は思い切って、家事の分担を変更しよう、と提案した。妻はすんなりと受け入れた。夫は張り切って食事を作った。半年を過ぎた頃、夕食後、妻が一枚の用紙を夫の前に広げ真剣な目をして言った。

「これに署名をして、押印してください」

それは離婚届の用紙だった。

「離婚してください。これ以上、耐えられません」

夫は突然の告白に脳ミソの思考回路がショートし、しばらく口をポカンと半開きにしたままだった。なんとか回路を復旧させ、震える声で尋ねた。

「なっなぜ、離婚なんだ。俺に良くないところがあれば、いくらでも直す。俺の改めるべきところを言ってくれ。それからでも遅くはないだろ」

妻は冷やかな声で返してきた。

「あなたの作る料理の味が舌になじまないの。これ以上、もう食べたくないのよー」

売れない

作家は自分の最新作の売れ具合を知りたくて書店へ入った。

『いい本の見つけ方』という新刊本はどこに並んでいますか」

店員「はい。その本でしたら、確かあ、倉庫に」

「倉庫かい？ これから陳列するのかな？」

店員「はっ、はい」

「ちよつと倉庫へ見に行ってもいいかな？」

店員「はっ、はい。どうぞ、こちらです」

荷札に『いい本の見つけ方』と書かれ、梱包済みのダンボール箱が放置されていた。

「あなた、早くこの箱を開封して、店頭に並べなさいよ」

店員「いいえ。これは出版社へ返品するものです」

返品

作家は自分の最新作の売れ具合を知りたくて書店へ入った。

入り口近くに平積みされている自分の本を手に取り、店員に尋ねた。

「この本の売れ具合はどうですか？」
店員「そうですね。並べたばかりですから」
3日後、また作家は書店へ入り、尋ねた。

「この本、売れますか？」

店員「まだ並べて3日目ですから」

1週間後、10日後と作家は書店へ入り、同じことを尋ねた。そのたびに、「まだ1週間ですから、まだ10日ですから」という返事を受けた。

2週間後、書店へ入ると平積みされていた自著は無くなっていった。喜び勇んで、店員に尋ねた。

「ここに平積みされていた本、全冊、売れたのですか!？」

店員「いいえ。昨日、出版社へ返品しました。お買上げでしたら、ご注文になりますか……」

うまい話

『絶対に、詐欺に遭わない方法!』という本を買った。
読了後、「金を返せ!」と怒鳴りたい心境になった。

書棚を借りる

— ある老舗の古書店。

男の客が入ってきた。男は所望する古書を物色することなく、一目散に文芸書の書棚へ進み、立ち止まった。

目の前に並んでいる全10巻箱入りの分厚い本を1冊抜き出した。まるで、愛蔵書を扱うような愛でる目をして、本を優しく撫でてからページを捲り、真剣に読み始めた。

奥のカウンターに座る店主は顔を上げ、その様子をちらつと見て、また顔を下げた。

男は背中のバッグからノートと鉛筆を出し、何やらメモを取り始めた。さすがに本に鉛筆を当てはしなかった。3時間後、男は本をしげしげと見つめ、名残惜しそうに優しく撫でてから丁寧に書棚に戻し、満足気な表情をして店を出て行った。

次の日も、またその次の日も、店には男の姿があった。それも同じ棚の前で全10巻箱入りの分厚い本を1冊ずつ抜き出しては読み、メモを取って帰った。店主はいつも男をちらつと見るだけであつた。

年月は流れ、2年後、男は相変わらず、同じ棚の前へ通っていた。ついに店主も根負けしたようだ。男に近づき、声をかけた。

「あんたからこの全集を買取るんじゃないかなかつたあ」

優所

— 欠陥車の唯一優れたところ。

それはドライバーの人間の欠陥を包み隠してくれることである。

芸当

Does your dog do any tricks other than shake hands? (お宅のワンちゃん、〃お手〃の他に何か芸ができますか?)

英訳省略。(もちろん。自分よりも大きな犬に睨にらまれると、寝転んで死んだマネをするよ。)

(付記。trickには騙す、策略の他に芸当という意味がある。)

後期高齢者

― 75歳になった祖父が中学生の孫に訊いた。
祖父『鉄は熱いうちに打て』この意味、分かるか？
孫 鍛冶屋さんの教訓？

祖父 いいや。なんでも物事には行うべきタイミングがあるので、その機会、その時を逃すなつてことだ。

孫 好機好齡者の言葉だね。

ヤバいつす

ああ。警官が強盗に手錠を掛けようとしている。ヤバい！（かつこいい）でも、反撃されている。ヤバい！（危ない）
警官が銃に手をかけたあ。ここで銃を使うのはヤバい！（遵法でない）
この違いを理解できないとヤバい！ つすよ。

中毒者

― 座右の銘。

「雨ニモマケズ

風ニモマケズ

親の小言ニモ妻の離婚届ニモマケヌ

丈夫な精神力ヲモチ

パチンコ・パチスロ、競輪、競馬、競艇通いをし

東ニ病気の仲間ガアレバ

行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ仲間アレバ

行ツテソノ重イ体ヲ負イ

南ニ死ニソウナ仲間アレバ

行ツテコワガラナクテモイイトイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマナライカラヤメロトイヒ

負けたトキハナミダヲナガシ

喰えないときはオロオロアルキ

ミンナニバカ者トヨバレ

ホメラレモセズ

相手ニモサレズ

サウイフ玄人ぶろのギャンブラーに

ワタシハナリタイ

（付記。宮沢賢治、「雨ニモマケズ」からの翻案。）

家族です

― 友人から年賀状が届いた。

“新しい家族が増えて、賑やかになりました。ルナ（3カ月）です。”

「おお。あいつのところ4人目が生まれたんだあ。名前からして女の子だな」
さっそく、メッセージを添えて、お祝い金を現金封筒で送ってあげた。
数日後、お返しに封筒が届いた。中には礼状とプードル犬の写真がたくさん入っていた。

ゲーム

—ジグソーパズルで人の顔を作ります。早く完成させたほうが勝ちです。

『目には目を、歯には歯を』

負けても恨みつこなしです。仕返ししないように。

抜き

大将 へい、らっしやい！ 何を握りましようか？

客 カップを。

大将 あいヨー。キュウリのシャリ抜き！ お飲み物はいかがですか？

客 お茶をください。

大将 あいヨー。お茶！ アルコール抜き！ お次は？

客 じゃあ。マグロ、ハマチ、サーモン、それにタイ。

大将 あいヨー。マグロ、ハマチ、サーモン、タイ！ はい、どうぞ！

客 シャリは？ サビは？

大将 あいヨー。シャリ抜き！ サビ抜き！

客 感じ悪く。

大将 あいヨー。商売つ気抜き！

一光

子 『親の七光り』って、先祖代々、7代にわたって、父親の頭がハゲてるってこと？

父 (笑) 違うよ。その意味は親の威光いこうや声望せいぼうが大きいと、その子供たちはあらゆる面でその恩

恵に浴することができるってことだよ。

子 じゃあ、お父さんはただのハゲなんだ。

寿司屋

客 大将！ すみません！

大将 あいヨー。なんでござんしょうか？

客 3日前にも食べに来たけど、今日のシャリは少し硬くないですか？

大将 おかしいなあ。その日のシャリを使ってんだけどお。

正しい英語

ずる賢い (cunning) 学生は試験でカンニングをしちやう (cheat on an exam) とする。

デブ症

毎日、外出もしないで、喰っちゃあ寝え、喰っちゃあ寝えしてるから、ブクブク太るんだよー。

一年の計は元旦にあり

元旦、軽くお屠蘇を飲んでから、初詣に行った。

「パチパチ。今年こそ、完璧に断酒できますように」

『酒を断ってから来なさい』

「うううっ。誰だあ」

『神の声』

ハンド

ある男、寿司職人になろうと弟子入りした。

いつまでたつても腕が上がらない。

大将が叱った。

「なぜ、そんなに不器用なんだあ。ここへ来るまで、どんな仕事をしてたんだあ！」

「はい。プロのサッカー選手でした。ずっとバックスを守っていて、手を使うと反則でしたから」

店屋物 (てんやもの)

わが家のダックスフンドは好き嫌いが激しい。

市販されているドッグフードを与えても鼻であしらいます。

妻が作る自家製の食事しか口にしません。

わたしはこんなダックスフンドが羨ましいです。

後始末

娘 お父さんが亡くなったら、お骨はどう処理して欲しい？

父 そうだな。墓を造つても、受け継いでくれる親族もいつかは居なくなりそうな時代だから。

娘 じゃ、どうして欲しいの？ 色々あるけどお。

父 うくん。たとえば？

娘 樹木葬っていつて、木の根元に散骨したり、骨を埋めるのよ。

父 なるほど。

娘 それから海が好きだった人だと、海へ散骨する人もいるみたい。

父 父さんは泳ぎが得意でないの、海じゃあ。浮かばれないよ。

娘 (笑) ああ。そっかあ。お父さん、飛行機に乗って外国へ旅するのが好きだったものね。

父 うん。空高く飛んで、雲の上の景色を見るのが嬉しくて。

娘 じゃあ、思い切って宇宙散骨葬ってどうかな？

父 宇宙へ持って行って、散骨してくれるのか？

娘 そうよ。

父 地球の周りをぐるぐる回り続けるんだな。

娘 そう。

父 それじゃ、いつまでたつても極楽浄土へは入れないよ。

娘 そうかもね。

父 宇宙のゴミ扱いされそうだし。

娘 その前に、お金がずいぶんかかりそうよ。

父 金のかかる散骨は滅相もない。

重大な理由

社長 君は、なぜ遅刻したんだ？
部下 はい。新幹線が遅れました。

(付記。よほどのことがない限り、新幹線は遅れない。それほど重大なことがあった、とほのめかして、こう理由を述べた。)

噂

妻 隣のご主人、窯元で働いているそうよ。
夫 どの？
妻 火葬場よ。

路上で

ドライバー すみません。警察署を探しているのですが、この道でよかったですかね？
通行人 違います。でも、もっとスピードを上げて走れば、向こうから来ますよ。

卒業式で

教授 やつと卒業だね。よく8年間、頑張ったねえ。おめでとう。
学生 ありがとうございます。
教授 で、ご両親は来ないの？

学生 すねが細くなって、歩くのが大変なんですよ。

中間管理職

入社時は右も左も分からず、苦労した。
今は、上も下も分かって、苦労している。

適正な報酬

職員 学長！ 赤字を減らしましょう。お手当てをカットしてください。高すぎます。
学長 そんなに高いか？
職員 行政能力に見合わず、世間の相場をはるかに超えています。

学長 それで額超がくちよう。

メーカー

T君 君はカメラが好きだね。なん台、持ってるの？

M君 ニコン。

T君 僕なんてさあ、1台しか持っていないのに、それを撮影中に落として、壊してしまっ
てさ……。

M君 可愛いソーニー。

モーパッサン

H子 フランスの短篇小説を聴かせてくれる朗読会に出席してみたのよ。
M子 へえ。どんな人が聴きにきているの？
H子 これがさあ、もうバアさんばかりでえ。

過眠

― 電車の運転士が居眠りをして大事故になった。
眠るはずだよ。いつも枕木に乗ってんだもの。

合否判定

― 大学の推薦入試での面接。
「毎日、どれくらい勉強してますか？」って聞く、面接官がいる。これは正しい質問です。
「30分くらいです」と答える受験生は即、合格。
「3時間くらいです」と答える受験生は落とせ、落とせ（一般入試でも合格するはずです）。
― 大学の推薦入試での面接。
「新聞を読みますか？」って聞く面接官がいる。これはいい質問です。
「はい。毎日、読みます」と答える受験生は落とせ、落とせ。
「まったく読みません」と答える受験生は即、合格（大学で読ませます）。

悟り

― 教授が学生に声をかける。
「どう説明すれば理解してもらえるのかなあ？」
学生は落ち着いた様子で答える。
「何回、説明していると思ってるんですか？ 10回は聞いてますよ。いいかげん、無駄だと気づいてくださいよ！」

盗品

W君 あいつ、逮捕されたって？
R君 そう。夜道で自転車に乗って、通りすがりの女性の肩からバッグを引っ手繰ったそうだ。
W君 それで、手が後ろ（ハンド・バック）に回ったんだ。

因果応報

― 僕は小学1年生だった。
「おお。雨がエル、見つけ」
カエルを掴みとると、そのお尻に麦ワラを挿し込み、思いつきり、息を吹き込んだ。
「フゥウ、フゥウ、フゥウ」
カエルの白い腹はみるみる膨らみ、破裂寸前になった。
「はい。空気を入れますからね。少し、我慢してくださいよ」
「ウウ、ウウ」小さな呻き声が洩れた。

横向きに寝転んだ僕はチューブというか、ホースというか、管を肛門から挿入されていた。

まんねり

― 日曜日の昼食メニューは毎回、ほぼ同じ。ソバ、うどん、パスタ、焼きソバ。

妻 お昼、何か食べたい物、ある？

夫 お前の創作料理。

みんな違って、みんないい

S君 シヤケもサケもサーモンもみんなサケ科に属するけど、獲れる季節も同じなのかなあ？

T君 いいや、トキシラズ。

通じません

― 学生たちに価格の変化と需要、供給との関係を説明した。

豆腐を例に、「豆腐二丁の価格が100円から80円に下がると……」

学生「ええっ？ 一兆で100円、80円？ タダ同然ですねぇ」

二進も三進もいかない

これ読めますか？

「にしん」も「さんしん」もいかないでしょ。

ブーです。「にっち」も「さっち」もいかない、と読みます。

へっつ。にっちとさっちの兄弟なんだあ。

じゃ、意味は？

二人とも何処へも出かけないってことですよ。

ブー、ブー。物事がうまく進まないことです。

浪花節

教授 これ「なにわぶし」って読むんだけど、何だか分かりますか？

学生 はい。鰹節かつおしだと、鰹を煮て乾燥させたものだけど……、浪に花だからクラゲを煮て乾燥

させたものです。

2足3文

教授 みなさん！ これ「にそくさんもん」って読むんだけどお、どんな意味だか分かりますか？

学生A はい！ 江戸時代の草鞋わらじ2足の値段でしょ。

教授 他の人はどうですか？

学生たち 僕も、わたしも、草鞋の値段だと思います。

教授 ブー、ブーです。これだけの人数がいても値打ちのない答えばかりですね。

(付記。二束三文とも書きます。)

威張れる

知者 聡明なお年寄りの見分け方を知ってるかい？
愚者 いいや。どう見分けるの？
知者 それは眉毛をみれば分かる。
愚者 ええつ。眉毛で？

知者 そう。白眉はくびだから。

(付記) 白眉とは同類の中で特に優れている人や物の例え。

日本語の不思議

— 親切。
親を切っておいて、優しく接するってかあ。

— 蚊に食われる。
あんな小さな虫に人間が食われるかあ。

死語

— おじいちゃんが肩もくさに艾を据えてもらっている。
それを見た孫。「新型の蚊取り線香？」
おじいちゃん いいや、凝こりを取るんだ。

未体験

— 腹むくさばいになって、おじいちゃんが背中に艾を据えてもらっている。
「うろうろ」。これは効く。堪らん。熱い、うろうろ」
「これくらい我慢しなさい」おばあちゃんが叱ります。
「それにしても熱すぎる」、ヒー」
「死んで焼かれることを思えば、これしきのこと……」おばあちゃんは平気の沙汰です。
「おっおい、お前、焼かれたことあるのかあ」

『罪と罰』

教師 誰だ！ アンダーラインを引いたのは。
生徒 はっはい。すみません。僕です。
教師 これはみんなが利用する図書館の本だぞ。それにラインを……、犯罪行為だ！
生徒 すつ、すみません！
教師 すみませんじゃあ、すまない。
生徒 はい、どんな罰も受けます。

真実

男G わたしには、借金はありません。

男U そうでしょうねえ。
男G なぜ、分かります？
男U だって、あなたには信用がありませんもの。この点は僕が保証しますよ。

本心

子供 CEOって何？
父親 会社の中でちよっ（C）と偉（E）らそうにしているおっ（O）さん。
子供 M&Aは？
父親 マ（M）トモな会社とア（A）カン会社が一緒になること。

自己分析

面接官 学生時代に学んだことは何ですか？
学生 はい。私は、よく頑張り屋さんだ、と言われてきました。
面接官 ほう（笑）。そこから学んだことは何ですか？
学生 頑張り屋さんと言われたら、もう自分の限界を越えていることを知るべきだ、ということが分かりました。

緊張気味？

事務員 先生。午前中に胃カメラの受診予約をされていた本田さんから、キャンセルの電話が入りました。
医者 何て？
事務員 昨夜から胃の具合が優れないそうです。

スマートホン

便利な世の中になって使わなくなったもの↓ 脳ミソ。
便利な世の中になって使いすぎているもの↓ 目と指先。

真面目

部長 （怒）君！ 昨日の会議を欠席したな？
社員 すみません。完璧に忘れてましたあ。
部長 気をつけたまえ。
社員 言い訳をするようですが、××さんはほとんど欠席してますよ。
部長 彼のことは放っておきなさい。君のようにたまたまに欠席すると目立つんだよ。

長い物語

老婦が空を見ている。頬杖ほおつえをついて、ポカンと口を半開きにしたまま。
空には雲もなく、虹もなく、鳥さえもいなくて、何にもなかった。空はただ空色をしているだけであった。
飽きずに、老婦は空を見ている。
その横で、その顔を老夫がじっと見つめている。

お返し

小説を書き始めたころ、あれを読んだか、これを読んだか、とどちらの無能ぶりを曝された。そのとき、私はその人にこう言ってやった。

「村上春樹さんでも、私の処女作を読んでもないはずです」

異意味同音

英語には発音が同じでも、意味が異なる紛らわしい単語が多くある。悪党たちは、大統領の車のブレーキ (brake) を壊す (break) 計画を立てた。航空業界では運賃 (fare) を引き下げる公正な (fair) 競争が行われている。馬 (horse) も風邪を引くようば、いななぎがかすれつる (hoarse)。月謝を払うのがキツクなつて、英会話スクールのレッスン (Lesson) を減らして (Lessen) たい。お父さんへの伝言。「会社の同僚 (peer) が棧橋 (pier) で待つています。」彼の仕事はガス漏れ感知器 (a gas leak sensor) を作ることではなくて、映画の検閲官 (censor) です。

受験生

H君 東京大学へはどう行けばいいですか？

通行人 勉強あるのみです。

K君 ××大学へはどう行けばいいですか？

通行人 そんな大学？ あるんですか？

重要な事情

M君 君のことが理解できないよ。君ははじめ長編小説『陽は昇り、そして沈む』を書く、と言つてとりかかったよね。なのに、今は俳句に取り組んでいる。俳句を書くために長編小説の執筆を止めたつてことかい？ 理解に苦しむよ。

K君 仕方がないよ。だって、原稿用紙が1枚しかないんだから。

知恵比べ

小さな本屋が廃業している。本が売れないのである。理由は図書館から借りて読む人が増えているからだ、そうだ。出版社と作家たちの生活も脅かされている。そこで出版社と作家たちは図書館に要求した。

「文庫本であれ、単行本であれ1冊貸し出すときには料金100円を徴収してください。この100円を出版社と作家たちでどう配分するかは自分たちで決めます」

こうすれば、出版社と作家も生き残ることができる。また図書館に金を払うくらいなら、本を書店で買おうという人も増えて、本屋の廃業も減るだろう、と思われた。

その結果、図書館から本を借り出して読む人が減り、館内で読む人が増えはじめた。そのため座席数やテーブル数が不足してきた。市町村の財政では施設の拡張はままならない。そこで図書館は出版社と作家たちに要求した。

「所蔵している本の出版社と作家たちに資金援助をして欲しい」
出版社と作家たちはその根拠を問いただした。

「なぜ、資金援助ですか？」

「本を所蔵、開架する手数料です」

「で、いくらの手数料ですか？」

「はい。文庫本であれ、単行本であれ1冊、100円をお願いします」

企画不況

社長 今月も、わが社の売上は減少している。営業はどうなってるんだー。営業部長！

部長 はっはい。社長。世の中、紙の本を買う読者は減っております。え。

社長 減っているから、わが社だけでも増えるように努力をしなきゃならんだろ。

部長 はっ。

社長 はっ、じゃない。出版不況といっても、売れてる本もあるじゃないか？ どうすれば売れ

るのか、買ってもらえるのか、もっと勉強したまえ！

部長 はっ。

社長 はっ、じゃないって。(スマホを取り出し) これを見てごらん。

部長 はっ。

社長 電子書籍化された、この本は企画も装丁も実にいい。

部長 社長！ それは他社の書籍ですがあ。

裏切り

結婚して30年。夫はうっかりして、結婚指輪を失くしてしまった。どこをどう探しても見つからない。謝るしかない。妻の怒る顔が目には浮かぶ。

「すまん。結婚指輪を失くしてしまった。本当に、すまん」神妙に頭を下げた。

その薄くなった頭へ妻は言葉を投げつけた。

「えっ！ まだ持ってたの？ わたし、あんなもの20数年前に買取業者に売ったわよ」

助け声

月明かりの道を男が歩いてくる。大橋の手前にきた。ふと、遠くに目をやると、欄干に脚を掛け、今まさに飛び込もうとしているヤツがいる。

(もしや……) 男は慌てて声を掛けた。

「そこは、浅いぞ！」

病人回収業

毎度、お騒がせいたしております。こちらは三高病院でございます。ご近所、ご家族、ご友人、

ご本人様で高血圧、高血糖、高コレステロールの方はいらっしやいませんか。いつでも回収いたします。

人材回収業

毎度、お騒がせいたしております。こちらは人材回収車です。ご自宅でご不用になった……。

「すみません！ これお願いしたいのですが」

「えっ？ これですかあ？」

「まだ、今なら使えるかと……」

「ぐうたら亭主だけは……お引取りしておりません」

それは犯罪です

― ボクシングの試合。チャンピオンの怒り。挑戦者のくせに遅刻するとは、「タイムマン」だ！
よくし、今度はリングの外で「決闘」だ！

行き着くところ

孫 おじいちゃん。老人ホームに入るの？

祖父 おお。孫よー。「特別酔う御老人ホーム」(特別養護老人ホーム)だよ。

孫 お酒、好きだもんね。でも、おじいちゃん、お金や健康とか「将来ガキになる」(将来が気になる)でしょう。

祖父 オシメを着けられたりなあ。

孫 ボケないように大好きな「隠し事」(書く仕事)だけは続けるべきだよ。

祖父 うん。「侍女」(自叙) 伝を書くつもりだ。

孫 「性交」(成功) を祈ってるからねえ。

運転

祖父 交通事故なんて、こつちがいくら注意をしても起こるぞ。

孫 どうして？

祖父 だってえ、運を天(転) に任せているから。

キャッシュレス社会

自宅や財布に現金をいくらくらい持っている？

現金？ 自宅には置いてないし、ほとんど持ち歩かない。

えっ？ すべて……？

そう。カードだと軽いし、楽だし。

そうだろうけどな。

キャッシュレスの時代だぞ。

それは分かってるよ。

じゃあカードにすればいいだろ？

カードでの決済が不安なのさ。ときどき会員情報が洩れてるだろ。利用者がどこでなにを買ったかという情報が転売されてえ。

そんな問題もあるにはある。でもな、(2019年) 10月1日に消費税率を2%引き上げて10%にしたとき、消費が減って景気が悪化するのを緩和するために、キャッシュレス決済をすると政府がポイント還元してくれる政策を導入しただろ。カードを持ってないと損するぞ。

ああ。騒いでたよなあ。盛んにあおっていたよなあ。

現状では、日本のキャッシュレス化は19.9%(2016年現在) しかないんだ。政府は、それを2025年までに40%にまで上げようとしているから、今後、ポイント還元政策が継続されるかもな。

それって、逆に見れば、それだけ日本人は現金が大好きってことだろ。

大好きであっても、世の中、少子化で現金決済するときにかかる時間と経費を削減するためにもキャッシュレス化は進展させるべきだって。世界じゃあ、カード決済が主流だぞ。韓国では96.4%だからな。

じゃあ聞くけどさあ。カード決済が普及すれば、政府はコインを発行しなくてもいいし、お札を発行している日本銀行だって不要になるってことか？

……？

どうなんだ。

コインやお札を発行している機関の役割は、確かに小さくなるかもしれない。発行量は少なくていいわけだから。

……それじゃあ、今持っている500円玉や1000円札、万札なんかは将来、希少価値が生まれるよな？

うん。そうなるかな？

古銭市場で高く売れるかもしれないよな？

おい。いつまで持っつもりだ。手元に残しても利子は付かないぞ。

……ああ、そっかあ。利子なあ。利子。……やっぱ銀行に預けるわ。クレジットカード、電子マネー、QRコード決済を利用するよ。

わずかな利子に反応するってかあ。お前も現金だなあ。

いや、キャッシュレスにするってえ。

希少価値

私、霊が見えるんです。

そりゃあいい！羨ましい限りだ。

えっ!?

見えないものが見えるんだろ。それでもって商売を始めろよ。

肝っ玉

目の前に幽霊が現れたら、どうする？ 怖いよね？

いや。一言、アドバイスしてやるよ。

どんな？

あんたは偉い!! そこまで怨み通せるなんて、並大抵の根性じゃないねえー!

知識不足

女性を愛するには、知識不足だった。

俺は毎週、好きな女性へ手紙を書いては職場のある隣市のポストに投函してきた。

真実を言えば、片思いだった。

3ヵ月後、思いが通じた。彼女からようやく一通の封書が届いた。

「やったあ!」

俺は小躍りしながら、封を切った。

中には一枚のメモが入っていた。

「送料不足です。立て替えた累計金額は1420円です。切手で払ってください」

「どういうことだ!!」

(付記。郵送した切手の料金不足の処理方法。差出人に住所・名前が明記されている場合、投函したポストが郵便局の配達管内であれば、差出人へ返送される。投函したポストが配達館外であれば、受取人へ配達され、受取人が料金を支払う。)

認識の違い

先生のご専門は？
はい。経済学、政治学、文学、人類学、生物学、宇宙物理学……。
そのうちのどれがご専門ですか？
すべてだよ。

いえ、主に、専ら研究している領域のことですが……。

学問を甘く見ちゃいけませんよ。私は千門家せんもんかです。どの領域も疎かにはしていません。

はあ。じゃあ、こう書く、専門家とは？

それは一門家いちもんか。いや何もしない、せん門家せんもんかのことでしょう。

虫の音

— 金曜日の夜。

残業が延びて、9時過ぎに事務所を出た。

自宅の手前には草丈が一メートルもあるうかという荒地がある。元は住宅用の更地であったが、いまだに買手がつかないようだ。

そんな荒地も秋になるのが待ちどろしい。

ギィ〜ギィ〜、コロ〜コロ〜、スイ〜チョン、ギィ〜ギィ〜、コロ〜コロ〜、スイ〜チョン、…

今年も、虫たちのオーケストラが思い思いの音を奏でている。

「あの音はスズムシ、キリギリスかな。いや、コオロギだったかな？ 虫たちも懸命に生きているんだよな」

疲れた心身を癒されながら歩を進める。

「キヤー!!」

虫の音がいつせいに止まった。

荒地から黒い影が飛び出して、走り去った。

私は、立ち止まり、呆然とその影を見送った。

恐る恐る、荒地に入り、なぎ倒された跡を見ると、なにかが転がっていた。

「大丈夫ですか!？」

声をかけ、その口元へ耳を寄せてみた。

虫の息もしていなかった。

夜気はふたたび、オーケストラの音で満たされた。

知識に勝るものなし

— 新人2人の一騎打ちとなった〇×市の市長選挙。

早々と立候補したKさんは当市が誇る大会社の社長。もう1人は遅れて立候補した印刷業を営むSさん。

選挙の結果。

得票数、わずか8票のSさんが11万票を獲得したKさんを破って新市長に選出された。インタビュア Sさん。勝利は、いつ確信しましたか？

「はい。Kさんが立候補したときです」

インタビュア エッ? じゃあ、勝因はどこにありましたか?
「知識の差です」

インタビュア 知識?

「そうです。被選挙人は3カ月以上、市民でなければなりません。Kさんは隣の市に住民票がありませんよ」

インタビュア なるほど?

「私は生まれて48年間、この市の住民です。被選挙人が当該市民にあたるのか否か、住民要件は開票時にチェックするのですよ。福岡高裁の1951年の判決をご覧ください」

インタビュア………?

「小が大を飲んだのです」

(付記。『朝日新聞』2019年8月27日参照。)

親子酒

親父が息子に声をかける。

「たまには酒でも飲むか?」

「じゃあ、ウイスキーにする?」

「いいねえ」

「サン (son) トリーでOKだね。ふっふっふっ」

息子がグラスに注ぐのを見て、親父は、

「もつと (モルト) 入れるよ」

どっちもどっち

町内会の班長を女房に任せた。回覧文を挟むバインダーが足りないようだ。総務部長へ電話をかけている。留守電にメッセージを入れること、3度。

後日、総務部長からバインダーが届いた。3枚。

自然災害?

「わお〜! 大洪水だ! 早く、女王様を別の部屋へー!」

地上では幼児が蟻の巣穴にホースを入れ、「これでも喰らえ!」水道の栓を全開にしていた。

思い遣り

祖母と孫が電車に乗っている。

社内にはテニスのラケットを背負った高校生たちの集団でこった返している。

席に座る者は両脚を大きく広げ、横にバッグを置いている。

駅に停車すると、杖を突いたお爺さんが背中を丸めてヨタヨタと乗り込んできた。

電車がガタンと発車すると、お爺さんはよろけて、慌てて支柱に手を伸ばした。

その手が若者の腹に触れてようだ。

若者はお爺さんをキッと睨みつけた。

お爺さんは気まずく、顔をそむけた。

斜め向いに座り、一部始終を見ていた祖母が呟いた。

「思い遣りがないねえ」

すぐさま、孫も呟いた。

「ラケットだよ。重い槍、そんなものないさ」

神通力の範囲

― 禍の続く家。

新築するとき、神主にお祓いをしてもらったのだが……。

どこの神社の神主？

札幌の〇〇神社です。

えーっ？ この地域の氏神様じゃ、なかったんだ！

初ウケ

売れない漫才コンビの相方が闇営業をして所属事務所から謹慎をくらった。舞台でなくて週刊誌上で爆笑された。

お見舞い

後輩 先輩。携帯もスマホもネットも、どれも持っていない、利用していないそうですね。

先輩 ああ。持っていないし、利用しない。

後輩 よく、生活できますね？

先輩 現に、こうして生きているじゃないか。

後輩 ……。

先輩 お前。なぜ、眼科に入院してるんだ。

極違い

部長 どうやって、この難局を乗り越えるかな？

社員 どこまでも雪原が続いているように。

部長 ……？

納得

教師 大学で勉強するのが嫌なら、早く社会に出て働きなさい。

学生 先生。分かっちゃいないですねえ。

教師 なにを？

学生 働きたくないから、大学にいるんじゃないですかあ。

札幌からの乱

― 2019年7月、参議院議員選挙候補者への首相の応援演説が響き渡る。

「消費税の引上げによる税収増は幼児保育費の無償化にあてます！」

聴衆のうち一人の女性が叫んだ。

「首相は帰れ！ 消費税引き上げ、反対!!」

すると、さっと私服の警官と地元の警官が女性の腕を掴み、後方へ引きずっていった。

これって明らかに「刑法の特別公務員職権乱用罪」に該当しますよね。

後日、開かれた国会において野党議員たちが首相の答弁に汚いヤジを飛ばした。

その日、終日、警視庁の電話は鳴りっぱなしだった。

「野党議員を国会内から外へ引きずり出せ!!」

真実の涙？

― ある芸人。
オレオレ詐欺で逮捕された人物のパーティに個人として出席し、車代100万円をもらった。
いわゆる闇営業。

5年後。これが週刊誌に報じられ、芸能事務所から契約を解消された。
その謝罪会見では涙を流しながら訴えた。

「老母が騙し取られた金を返してもらっただけのことです。うううううう」

レベルを上げる

事務職員が講義中の教室を覗いて回っている。授業時間が守られているのか、チェックしているらしい。

遅れて来た学生が声をかけた。

「お暇なら、中へ入って、一緒に講義を聴きませんか？ 『労務管理論』の勉強をし直しませんか？」

無集音

― 近ごろ、こんな大学があるそう。

すべての教室に監視カメラを設置した。教員の授業風景と学生の受講態度をチェックし、授業環境の改善に活かすためらしい。

モニタールームでは学長がひっきりなしに画像を切り替えている。

その目と同じ光景が飛び込んできた。

どの教室も教員と学生たちがカメラに向かっていつせいに叫んでいる。

「仕事をしろ!! 給料泥棒!!!」

職務

学生 この大学って、事務職員が講義中の教室を覗いていますよね。

教員 教員を監視したいのだから。彼らは、時間は余っていても心に余裕がないのだよ。

学生 窓口の対応はゼンゼンなってないです。腹立つ！

教員 自分のは分かんないものだ。君は大学生なのだから大人の対応をしてあげなさい。

まんねり

― エレベータに設置されている監視カメラ。

そのカメラに向かって、いつも手を振る男がいる。

モニタールームの警備員。思わず手を振り返す。

無理無理

― エレベータに設置されている監視カメラ。

美人の女優が乗ってくる。

モニタールームの警備員はいつも手を振って気を引こうとするが……。

赤字の解消策

学長 受験生と入学者の確保が最優先課題だな。

教員 授業料を後払いにしてはどうですか？

学長 出世払いということかな？

教員 はい。

学長 前払いじゃないと、誰も払ってくれんだろ。

教員 なぜ？

学長 講義内容に自信があるかね？

教員 ……。

禁句

— 大学生に対して。

勉強しなさい。

(教室から脱走します)

— 教員に対して。

研究しなさい。

(クーデターが起こります)

— 学長に対して。

(……)

(締め付けが厳しくなります)

アメと無知

√16。ルートを外してごらん？ 答えられれば、お菓子をあげるよ。

えーっ？ 道は外れたくないです。

面接試験

面接官 入学後、大学ではなにをしたいのかな？

受験生 はい、バイトです。

面接官 勉強は？

受験生 講義にはバイトの空き時間に出席しますよ。

面接官 それは逆じゃないの？

受験生 だって、勉強しなくても、この試験は受かるし、卒業だってできるって先輩から聞きま
したよ。

面接官 君、ここは大学だよ。

受験生 定員割れしてますしい、偏差値30ですよ。

手抜きの連鎖

学生 大学へ入学して、始めて勉強しろ！って注意されました。

教授 高校の先生は、どんな指導をしてくれたの？

学生 なんにも、なんくにも、しなくても、大学は受かるって。

教授 ほう。

学生 高校だけじゃないですよ、中学も小学校でも言われたことはないです。
教授 2分の3の割り算ができないの？
学生 はい!!

経営学部

― 慢性的な赤字。

経営学を教える前にすべきことが……。

新書

男A トランプ大統領が北の將軍様に親書を送ったそうだよ。

男B 手帳に読めるからね。

どっちが怖い

米朝の怪談と米朝の会談。

自虐 ①

― 夕張メロンの初競り。

2玉、500万円。

男 俺のじゃ、とうていかなわない。

自虐 ②

― 夕張メロンの初競り。

2玉、500万円。

男 俺は息子に2倍の教育費をかけた。

雷

― どどどど どどどど。

幼児 お父さん、雷が鳴ってる。怖いよー。

父親 心配するな。あれは雷のオナラだよ。

― ピカー ピカー。

幼児 光ったよー。

父親 オナラに火が点いたんだ。

結婚賛美

既婚者 結婚してごらん。1人の異性に逢うことができるから。

独身女 どういうこと？

既婚者 たくさんの男を知っていても、ついに1人の異性にさえ逢えない女も多くいるからね。

解決方法

先輩 女房と喧嘩をしましてえ。

後輩 おい、またかあ。殺し文句の一つも言っちゃれ。

先輩 なんて？

後輩 俺が悪かった。

亡妻の墓前にて

夫 お前が逝って、もう49日。俺は健脚だから、このハンディは苦にはならないぞ。

追突事故

― 大海原。

2隻の船が航行すれば狭くなる。

老練

先輩 夫婦喧嘩は大いにしなさい。

後輩 えーッ？ 身が持ちませんよ。

先輩 夫婦喧嘩は共生のためのレシピ、隠し味ですよ（笑）。

無駄

先輩 君は研究費を使っても、論文が書けていない。まるで種を播かない畑と同じだ。

後輩 えっ？

先輩 いつまでたつても芽が出ない。

本心

議長 これだけのメンバーがいるのです。意見を出してください。

メンバーたち ……。

議長 どなたも意見がないのですか。どうしてだ！ これじゃ、会議の意味がない！

メンバーたち （早く、終りたいよな）

虚しい

意見の出ない会議は、評価をされない論文と同じ。

学識

宗教の勧誘員 経済学を勉強している学生さんなら非科学的な神の存在を信じないでしょ。

学生 いいえ。 「神の見えざる手」だけは信じます。

勧誘員 ほう。で、教祖様？

学生 アダムスミスと申します。

埋まらない差

― 休講揭示。

偏差値30の学生 やった、遊ぼうぜ！！

偏差値70の学生 授業料を返せ！

メダル

金が取れなかったからって、落ち込むなよ。

銅は金の右に並んで同じくらい価値がある。

歴史 ①

後輩 先輩 俺、離婚しました。
先輩 また？
後輩 バツ3です。
先輩 歴史は繰り返される。

歴史 ②

チンピラA 兄キイ、日本銀行の金庫を狙いましょう。
チンピラB お前、歴史に名前を残したいのか？

迷医

男A 医者つてさあ、手術をするとき、必ず手袋をはめるよね。あれつて、なぜなの？
男B もしものときのために指紋を残さないためだろ。

下着

男 ショート・ショートよりも短い落とし衤にタイトルを付けたいんだが……。
女 ショーツでいいんじゃないの。

小説家の女房

夫 俺が書いた、この小説、読んでみてくれ。
妻 素人が書いたものなんて、読めないわよ。

個性

男H 君の書く文字は下手糞だな。
男F いえ、芸術的と言ってください。

夫婦喧嘩は尾を引く

課長 Aさん。営業成績が伸びてません。問題はなにですか？
Aさん ……問題……？
課長 どうされましたか？ ぼんやりして。現況における問題点ですが……。
Aさん 元凶は女房ですよ。
課長 えッ？ 女房。
Aさん あいつがわがままだから。

理解の違い

後輩 先輩！ うちの女房、炊事、洗濯、掃除以外はなにもしなくて……。ほんと、腹立ちますよ。

先輩 3食昼寝付きの家政婦が同居している、と思え。おまけに夜のサービスはタダだろ。

少子化

男A 子供をつくらない夫婦が増えている。
男B 教育費がかかりすぎるから。

男A いや、政治に問題がある。

男B 政治？

男A 元はと言えば、小泉首相に責任がある。

男B なぜ？

男A 性（聖）域なき構造改革をやったから。

深い想い

— おじいちゃんとおばあちゃんは結婚50年目。

それを振り返り、自分史を書いた。

そのタイトルは、おじいちゃん著『わが闘争』、おばあちゃん著『自由からの逃走』。

未完治

— 男が精神科でカウンセリングを受けた。

受診後、医者を訴えた。

「あんたは俺の個人情報を知りすぎた」

目には目を

議員 議長！ もつとスムーズに議事を進めてください。

議長 じゃあ、反対意見を出すな!!

貧富

カタツムリ 持ち家に住む。

ナメクジ 野宿者。

ヤドカリ 空き巣。

東西冷戦って？

かつて、ソ連とアメリカが開催していた雪合戦のこと？

風邪の診察

医者 はい。アーンして、ベロを見せてね。

幼児 アッカンベー。

警戒

医者 では、全身麻酔をしますね。

患者 ちよつと待ってください。

医者 どうしましたか？

患者 財布の中身を確認しておきます。

ファイティング・ポーズ

いつ死んでもおかしくない患者の耳元で1から9まで数えると、起き上がってくる。

「元ボクサー」

金のか

お金で買える友もいる。
「ヘット」

発想の転換

繰り返し返す失敗を悔やまない。
マイナスとマイナスを掛ければプラスになるだろ。

余裕

A君 離婚することに決めたよ。
M君 糊代もないのかい？

食わず嫌い

学生 なぜ、こんな勉強をしなきゃいけないのですか？
教授 勉強した後で分かるよ。

おんぶに抱っこ

— あなたは、どっち。
A君 抱っこかな。親も子の顔色がよく分かるから。
B君 おんぶ。親の肩越しに、親と同じものを見る。まなざしが外へ開かれるから。

3匹

— イモリ、トカゲ、ヤモリ。
識別できません。
蝾螈（イモリ）、蜥蜴（トカゲ）、守宮（ヤモリ）と漢字で書いても識別できません。
実物を観ても識別は困難です。

正解

「雲の上の人」って、どんな人なの？
死んだ人のことだよ。
へ〜っ。住む世界が違うんだあ。

読み方

「他人事」って、どう読むか知ってる？
タニゴトだろ。
違うよ。でも、教えない。自分で調べてね。
おい〜。ヒトゴトみたいに言うなよ。

一緒にいたい

英語で「恋人募集」って、なんて言うの？
簡単だよ。いつも一緒にいたい彼女のことだろ。
うん。

「together」だよ。

えっ？

「to get her」

日本語国際収支

― 赤字を解消したい。

「寿司」に日本語の商標権を設定しましょう。

じゃあ、芸者も、富士山も、天麩羅も……侘び、寂び、渋み、柔道、剣道、交番にも……「おもてな・し」にも……。

有形・無形の日本語使用料を徴収するわけです。

小学校学年別漢字配当

― 世にはびこる順番？

「金」は1年生で、

「悪」は3年生で、

「善」は6年生で習います。

― 飛び越します。

「男」と「女」は1年生で習いますが、「恋」は小学校では習いません。でも、「愛」は4年生で習います。

― なぜか、分かれています。

「子」は1年生で習いますが、

「親」「父」「母」「兄」「弟」「姉」「妹」は2年生で習います。

「生」は1年生で、

「死」は3年生で習います。

― 横断歩道。

「車」「右」「左」「見」「気」は1年生で、

「黄」「色」は2年生で習います。

甘えるな

ある日、僕は友達にイジメられた。

泣いていると、その理由を聞いたお父さんは怖い目をして言った。

「このー、ヘナチョコ野郎」

それからいくら待ってもヘナという名のチョコレートはもらえませんでした。

即効

― マーケティングの授業。

教授 睡眠薬のキャッチコピーを考えてください。

学生 はい。この薬は教授の授業を3分聴いたような効果があります。

情報過多

君はいつもネットを見ていて、論文が出てこない。はい。先行研究を検索しているだけで時間が過ぎてしまいます。

望

客Y このヘタクソ！ 座布団、持って楽屋に戻れ。じゃなきや金をやるから引つ込め！」
客F まあ、まあ。まだ前座ですから。もつと稽古すれば、巧くなりますよ。おーい、焦らず、しっかり稽古しろよ！」

前座 そのお客さん！ 同情するなら、笑いをください!!」

葉っぱ

空気清浄機です。

落葉

空気中の汚れ、CO₂を吸い取った死骸です。

原子力発電所

地球を破裂させる時限爆弾です。

大きな格差

「腹減った」と言つて、食べられる幸福。
「腹減った」と言つても、食べられない不幸。

責任転嫁

他人の不幸、それは自分の所為^{せい}じゃない。
自分の不幸、それは他人の所為。

参加意欲は？

— オンライン会議。参加者数は55人。
画面に顔を映しているのはホストだけ。

無担保

総理 政府と自治体を合わせて1000兆円の借金がある。
国民 誰が、そんなに貸したの？

早とちり

安アパートに住んで10年。旦那は零細企業の社員。ある日の夕方、旦那から女房へ電話があった。
「おい。俺だけだ」
「はい。どうかしたの？ こんな時間に」
「実はなあ、4月から俺たち家賃の高い部屋に住むことになるから」
「ええっ。どうしたの？ なぜ？」

「ああ、今、会議の合間だから、帰ったら詳しく話すよ」と言つて、旦那は電話を切った。

「家賃の高い部屋。来月から住宅手当がアップするのかな？ それとも昇進してお給料がアップするのかな？ このボロアパートから引越すのかな？」

心中、そんな想像を巡らせながら女房はいつになくご馳走を作り旦那の帰りを一日千秋の思いで待っていた。

「ピンポーン、ピンポーン」

「はい」女房は満面に笑みを浮かべ、ドアを開けた。まるで新婚気分です。いつものように疲れ切つた旦那は食卓テーブルを見て言った。

「なにか祝い事でもあるのか？ 俺たちの誕生日はまだ先だけど」

女房は目をキラキラさせて答えた。

「だって、あなた、電話で高い家賃の部屋に住めるつて言うから、お手当とか昇進とかがあつて……」

「うん」旦那は料理に目をやつたまま、「夕方、会議中にこの大家から直接、メールが届いて、来月の更新時に家賃をアップするつて書いてあつたんだ」けだるそうにネクタイを外して、女房へ手渡した。

そのネクタイは女房の手をすり抜けて床に落ちた。

乳牛

その昔、乳牛は広い草原にいた。緑の草を食^はんでは、おっぱいタンクを満タンにし乳首の先からポタポタと垂れ落としていた。乳牛は考えた。この乳を売つてみようよと。

「モー、モー！ お乳を売ります！ 600ミリリットルで200円」

その声を耳にした農夫がやつてきた。

「どうやつてお前さんが自分の乳を搾つて売るの？」訝しげに訊きます。

「はい。お客様が600ミリリットルの器を用意して、搾ってください」

「なるほどお、わたしが搾るんだね」農夫は微笑を浮かべています。

「そうです」

「なるほど、なるほど。これはいい考え方、やり方だね」農夫は口元をニツと歪めます。

農夫は600ミリリットルの器を牛に見せてから、乳を搾り始めた。いつまで経つても終わらない。

「客さん、お客さん。もう600ミリリットルは搾つたでしょ」

「いいえ、まだです」

おっぱいタンクはすっかり空っぽになつてしまった。

草原へ戻つた乳牛はまた新鮮な若草を食み始めました。牛には胃が4つあります。その胃袋を満たすのは大変ですが、胃袋が膨れるとともにおっぱいタンクも膨れます。次の日、乳牛はまた乳を売りに行きました。

「モー、モー！ お乳を売ります！ 600ミリリットルで200円」

昨日のお客さんが来て、昨日と同じようにおっぱいタンクが空っぽになるまで搾りました。またその次の日も。

ある日、草原の周りに柵が作られました。乳牛は外へ出ることができなくなりました。大きな小屋も建ちました。小屋の中には、草の他に食べ物がいっぱいありました。

乳牛は恐る恐る入つてみました。そこにいれば夜露に濡れることもなく、強い風から身を守るこ

ともできません。

いつものお客さんが言いました。

「いつまでもここに住んでいていいのだよ。食べ物と水はわたしが用意してあげるから。寝床だって温かい麦わらを敷き詰めてあげるよ」

「それでは、わたしがお金を払わなければなりません」
すると、お客はすました顔で答えた。

「なに。心配ご無用さ。毎日、乳を搾らせてくれれば」
この後のことはみなさんご存知のとおりです。

Wの悲劇

言葉は怖い。誤って人の命を奪うこともある。

暴言やSNSで、誹謗中傷して自殺に追い込むと。

いいや。正しくしゃべらないと相手に通じないだろ。

うんうん。そうだよ。でも、それで命が奪われるって大げさじゃない？

あつたんだあ、実際に。

どこで？

2015年にスペインの北部で。

なにが？

17歳のオランダの女の子が高架橋からバンジージャンプを試みたんだ。

うんうん。怖くないのかね？

しつかり安全装備を着けてりや、後は気持ちの持ちようだから。なんてことないよ。

でも、その女の子になにかあつたんだろ。

そう、あつた。インストラクターがついていたんだけど、ロープを身体にしつかり固定しないまま高架橋へ誘導してきたのさ。

じゃあ、まだ飛んじやいけない。飛べないよ。

そうだよ。で、ここが肝心なんだ。インストラクターは『do not jump (まだ、飛ぶな！)』

と言ふべきところを『no jump』って言ったそうなんだ。

よく略しちゃうから。聞きようによっては、まだ飛んじやいけない！だよ。

そう。ところが、女の子は『now jump』と聞いたんだ。これが。

いま、飛びなさい。飛んでいいよー、ってことさ。

そう。で、死んじやつたんだ。『no jump』『now jump』で、『no』と『now』。Wの悲劇さ。

(付記。Asahi Weekly, Sunday, July, 2017の翻案である。W＝ダブルユー、Womanの頭文字で「女性」を表す。Duble＝ダブル。同じことが重なること。)

腐れ縁

―― 閻魔大王が3人の亡者に声をかける。

お前たちは生前、オレオレ詐欺を働いた者たちだな。でも、この地獄の環境に、仕打ちによく我慢した。褒美に3つの願いを適えてやろう。

亡者A 俺は天国へ行きたい。

閻魔様が指をパチンと鳴らすと、Aはパツと消えた。

亡者B 俺は生き返りたい。

閻魔様が指をパチンと鳴らすと、Bもたちまち消えた。亡者C そうだな。仲間が居なくなった寂しい。あいつらとまた一緒に仕事がしたい。閻魔様が指をパチンと鳴らすと、AとBは再び地獄へ戻ってきた。

嘆き

大昔、ネズミはペストの元凶と言われ、駆除されてきた。今はペットとして可愛がられているよ。いいや、医学の治験用として、たくさん処分されている。

苦手なものは苦手

教授 私は大学教授です。

小学生 じゃあ、この説明をしてください。

$$(-1) \times (-1) = +1$$

どうです。マイナスとマイナスを掛けるとプラスになる。

教授 う〜。

小学生 じゃあ、分数の割り算は分母をなぜひっくり返すのか？ 説明をしてください。

$$\frac{5}{3} \div \frac{3}{4} = \frac{5}{3} \times \frac{4}{3} = \frac{20}{9}$$

教授 う〜。良い子の皆さん！ 大学教授だからといって、なんでも理解していると思わないでね。

言ってみたい

— 理髪店で洗髪中。

店員 かゆいところがありますか？

客 ……はい。

店員 どこですか？

客 ……お尻。

究極の選択

— さ〜、どっち。

ウンチふうのカレー。
カレーふうのウンチ。

あれば大変

すべるところがおろし金になっているすべり台。
入ると出て来られない迷路。
アリ地獄の上にある砂場。

プロレス中継

実況 ついに出了た！ ジャイアント馬場の16文キック!!
解説 16文、16文、16文……なんセンチだっけ？

(付記。1文は約2.4センチです。16文は約38・4センチになります。)

好物

― ハイキングの途中、昼食を摂っているとクマが出てきた。
人間 私を食べないでください。
クマ じゃあ、そのシヤケ弁当をくれ。

ビン詰

「そんなトンマなことばかり言ってるから、お前はビン詰めだービン詰めだーって陰口をたたかれるんだ」
「なに？ そのビン詰めって」
「どんなビン詰めも、てっぺんまで一杯詰まっているようで上の方が少しだけ空いているだろ。少くし、だけ抜けているってことだ」

減税策

― グリーン減税。
緑を増やす方策を考えた。戸建て住宅で庭に木を植えると、グリーン減税と称して住民税を減税する。マンションであればベランダで盆栽を育てると減税対象とする。
― その理由。
水をやったり、肥料をやったり、剪定をしたりと時間と経費がかかっているから。
こうでもしないと自然環境は維持できません。

いつまでも一緒になれない

親に反対され結婚できなかった若いカップルがいた。
男は女の目を見て言った。
「50年後、この時刻にもう一度会う約束をしてもらえませんか」
なんとも夢のような嘘のようなロマンティックな話に女は素直に首をコクンと垂れた。
「どこで会いましょうか」
男は街のランドマークになっている橋を指示した。
それから2人はそれぞれ別の相手と結婚した。いつしか時間は過ぎた。子どもたちも手を離れ、

昔を懐古する年齢になった。

男は若い頃に女と交わした約束を思い出した。女もまた思い出していた。

初老の2人はワクワクする高揚感をみながら、約束した時刻にランドマークの橋を目指した。男は橋のたもとに老女を見つけ、声をかけた。

「○○さんですか」

「はい。あなたは△△さん」

「そうです」

それから老い先短い境遇をトツトツと話はじめた。

そして結論を出した。

「やっと一緒になることができますね」

「はい」

そう言うと、2人は手に手をとって、欄干から身を投げようとした。

そのとき、通行人が叫んだ。

「そこは浅いぞ！」

根性比べ

17年かけて地中から出てくるセミがいる。

18年かけて獄中からでてくる輩がいる。

遭った児に教えられる

― 2人の刑事。

K 先輩。どっちへ行けばいいですかね？

J 刑事だって、道に迷うことはある。その幼稚園児に聞いてみる。

K (警察手帳をかざす)

園児 5丁目はその信号機の向こうだよ。

草魂の叫び

【雑草】栽培している作物や草花以外に自然に生える、いろいろな草 『旺文社 国語辞典 第十版』より。

「おい、みんなこの定義をどう思う？」

「俺たちをコケにしやがって」

「栽培している作物や草花？ 人間の口に入るもの、愛でられ売り買いされるものか？」

「じゃあ、ヨモギ(蓬)はどうなる？ ツクシ(土筆)、イタドリ(虎杖)は？ その季節になれ

ば食されている」

「ノギク(野菊)、タンポポ(蒲公英)、ミスバシヨウ(水芭蕉)、セイタカアワダチソウ(背高泡立草)だって可愛がってもらっている」

「いろいろな草でひと括りにしていやがる」

「俺たちにはみんなオンリーワンの名前がある」

「雑とはなんだ！」

「俺たちの魂の叫びを、人間への悪口として聞かせてやろうぜ。へっへっへっ」

「これを「草魂(そうこん)」と言うんだ」

「いや、雑言(ぞうごん)だろ？」

「正しくは、悪口雑言（あっこうぞうごん）ってんだな」

用心深いの？

大きな交差点、男は右前方にある信号機が黄色から赤色に変わる二秒ほど前に、ペダルを勢いよくこいだ。自転車は横断歩道の三分の一を過ぎるころ、前方の信号機は赤色から青色に変わった。

横断歩道を渡りきると、

「ちよつとすみません」

と、言つて見知らぬ中年男が声を掛けてきた。

ブレーキをかけ、自転車を停めると男は胸ポケットから出した手帳らしきものをかざして、

「警察ですが、いま、信号を無視しましたよね。信号は守ってくださいよ」

と、近づいてきた。

思わず、「二秒くらい早かつたかなあ？」と返した。

「信号は守ってもらわないと困りますね」

「はい、左右から車が来ていなかったので、ちよつと早く出てしまったかな」

「お仕事の帰りですか？」

怖い目をして訊いてきた。

「その質問に答える前に幾つか確認させてください」

男は毅然とした声で言った。

「何でしょうか？」

「私服ですよ」

「そうです。この先で殺人事件があつて、その聞き込みをしているのですよ」

「殺人事件、そうですか。これが警察手帳ですか？ ずい分、コンパクトですね。ええとしつかり見せてください。写真と同一人物かな？ お名前は？ ID番号は？」

男は手帳をこねくり回した。

「そんなにジロジロみなくても、私は〇〇署の刑事で△△ですよ」

「いえ、今頃、警察を語る色々なサギが流行つてるじゃないですか。うっかりこちらの仕事、名前や住所、電話番号なんかをしゃべろうものなら、とんでもないサギに引つかかりかねませんか。手帳一つで騙されるつてもありますし。日本人は国家権力に弱いですから」

「大丈夫ですよ。確かに、私は〇〇署の△△ですから。入署十五年ですよ。心配はご無用です」

「いえね、その〇〇署だとか、入署××年という言葉を信じちゃいけないのですよ。長く勤めてりゃいいつてもんじゃないでしょ。『心配はご無用』つて、それ、サギがよく使う手口ですよ。

善良な市民は、警察官は誰も悪さをしない、正義の味方と信じ込まされていますからね。用心しなきゃ。後で〇〇署へ電話をして本人確認をしてみましよう。確認がとれしだい、なぜ私が二秒早く信号を無視してしまつたのか、をお話しますよ。それ以外の職務質問にはお答えできません。個人情報が悪用されるかもしれないのでね。ああ、そうだ。できればあなたの写真を撮らせてください。ついでにこの警察手帳をそのコンビニでコピーさせてください。念には念を入れておかなきゃ、後悔先に立たず、つて言いますよね」

そう言い終ると男はへっへっへつと薄笑いを浮かべた。

「あなたねえ、そんなに用心深いのであれば、ちゃんと信号を守ってくださいよ」

警察官は男から警察手帳をひったくるように取り戻した。

感動

「さあ、はじめるよ。今日のレポータは誰かな。この演習（ゼミナール）の時間は通常の講義とは違い、皆で意見交換をする場なので、主役は君たちだから、何か一言しゃべってから帰るようになさい。私よりもたくさんしゃべらないと単位を出さない場合もあるから……」と学部三年生のゼミは、いつも私のこんな口上からはじまる。

「何かしゃべれないと就職試験の面接に対応できないよ。この場で自分の言葉で何かをしゃべれるように訓練するのと思うよ。多くの話題を持っている人、自分よりもたくさん知識をもっている人と話すと、その時間は楽しいだろう。あくあ、それはそういうことだったのか、と言葉も出ないような感動をすることがあるだろ。知らないことは恥ずかしいことではない。どんなに幼稚な意見、質問、疑問、感想でもいいから出しなさい」

「先生！ 質問があるのですが」

「はい。岡田君。いつも早いね」

「文献の後ろから五行目に、にんげん いたるところ あおやまあり（人間到る処青山あり）」という文章があるじゃないですか、これってどういう意味ですか？」

「これかあ、そうだなあ。普段、使わないなあ。見たことないよなあ。すこし古い文学書には出ていることもあるんだけどね。これはねえ、おっと！ 私が答える前に、誰か、この意味解るかい。解る人はいないかな。いないかあ。よし、じゃあ、ヒントを出すよ。これはだね、人間（にんげん）ではなくてじんかんと読み、その意味は世の中のことだよ。青山（あおやま）と書いてせいざんと読み、骨を埋める所を意味しているんだ。これで全体の意味が解る人はいるかい？」

「はい！」

「中村さん。どうぞ」

「世の中には人骨を埋めるところがたくさんある、ですかね？」

「違うね。ここまでの本文の流れや話題から推測して、解らないかなあ。想像を豊かにしてみようよ」

「そうだ、解った。はい。先生！」

「おお鈴木君かあ。解ったかい。期待しているからね」

「きつと、これは高齢社会になって、死ぬ人が増えたので、お墓をつくる場所が減ってきた、ということだと思います。ピンポンでしょ」

「そう思うかい。ブウーブウー。残念！。違います。よし、私が説明します。これは江戸時代末期の月性（げっしょう）という僧が作った詩に由来する言葉なんだよね。意味は、人間はどこで死んでも骨を埋めるくらい土地はある。だから志を持って故郷から世界へ飛び出しなさい、世間は広いから殻に閉じこもらず何かに挑戦しなさい、という意味なんだよ。」

「……」

「……」

「どうだい、人は感動すると、言葉がでないことがあるよね。丁度、今がその時だな」

意志をもったキャリアバック

私は函館発大沼公園駅行きの普通電車に乗っていた。隣に座る中年のおっさんはすでに眠りこ

けていた。その両脚には輪つかの付いたキャリーバックを挟んでいた。ガタゴトガタゴトと電車がひと駅ずつ停車しては、また発車した。

幾つ目かの駅でガタンというブレーキ音に体は大きく右から左へと揺り動かされた。その瞬間、おっさんの両脚に挟まれたキャリーバックは解き放たれたようにリズムカルにゴロゴロと音を立て、ドアの横まで移動した。

その一部始終を見ていた向かいの長椅子に座る老婦人は幼児のように愉快そうに微笑んでいた。私はその表情が眼に入ったが何も応えなかった。隣のおっさんはまだ眠りこけている。キャリーバックはドアの横に停止したままである。乗降客の誰にも邪魔にならない所にうまく停まっていた。

電車は何事もなく、目的地を目指して走っていた。老婦人はニコニコしながら、寝込んだおっさんとバックを交互に見ている。その後も何度か、眼と眼がぶつかったが、私は何も応えなかった。

車窓から終着駅のホームが見えるようになった。突然、ガクンとブレーキが掛かった。体は大きく右に動いてから左へ振り戻された。その瞬間、ドアの横にいたバックがゴロゴロと動き、おっさんの開いた両脚の間に戻ってきた。まるでブーメランのように。

老婦人は声を立てずに桃色の歯茎を出して笑っていた。私が立ち上がると、おっさんはようやく眼を開け、きよんとしたその眼を泳がせてから、バックの取っ手に手を掛けて立ち上がった。

(了)